

あすなろ

静岡県伊豆市小下田 2492 駿豆学園 令和5年5月31日 238号
TEL0558-99-0248・FAX99-0258



あおぞらの下で

回復と転換の令和5年度

園長 天良 昭彦

令和五年度となり、五月八日には新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置付けが「五類」に変更されました。入所施設の特性やリスクを考慮しつつ、基本的な感染対策は継続したうえで、実施事業をいかにコロナ禍前に戻せるか検討を進めています。外部や地域社会との接点を回復し、各種行事もご家族やボランティア等との交流を実施する方向で考えていますが、交流や企画の規模については随時その時々感染状況により流動的に判断していくつもりです。

令和五年度は重点項目のひとつとして「豊かな生活の提供」を掲げました。コロナ禍の三年間「感染防止対策」を重点項目としながらも、職員は利用者の生活の質が低下しないよう知恵をふりしほり支援してきましたが、様々な制約もあり利用者に辛抱してもらうことも多々ありました。学園の基本理念には「豊かで安らぎのある生活の営みを大切にします」と謳っており、この「豊かな生活の提供」が十分であったとは言えない、という反省に立ったものです。

その他、コロナ禍前に戻し回復することばかりにこだわらず、転換の時との視点に立ち、進化する意識を持つ必要性も感じています。

三年間のコロナ対応は、ご家族や地域社会との接点が著しく希薄となり、この分野はまさに空白の三年間と言っても過言ではありません。毎年、何度もお会いし継続的に接していた頃には気付かなかったことが、三年間の時を経てご家族の状況の変化に気付くことが出来ました。

利用者の平均年齢はこの四月一日現在で四十六才です。ご家族、特に親世代の年齢はご高齢になりつつあり、施設に來園するための運転等で困難な方々が決して少なくない現実に気付かされました。今後は利用者のご兄弟世代の活躍に期待したいと思います。「親の会」の名称を「家族会」に改め、家族との接点の間口を広げていきたいと考えています。

また、これまで、帰省日（外泊）や面会日を設定し一斉に実施してきましたが、今年度は特に日を定めず、ご家族の都合や希望により家庭単位でご判断いただく形にしました。

元に戻すことと、転換（進化）すること、双方の視点に立ちバランス良く取り組む年度としたいと思っています。

総務課より

総務課長 山口 深志

初夏を迎え、駿豆学園のまわりは緑一色に染まっています。ウグイスやメジロなどの小鳥が大きな声でさえずっていますが、その姿は木の葉にかくれていて見ることができません。環境省が、二〇二一年に公表した

「全国鳥類繁殖分布調査」によると私たちに身近なスズメやツバメが非常に減少しているそうです。減少してしまった原因は、彼らを育てていた穀物を作る農地が、野菜を栽培する畑地に変わったことと考えられているようです。スズメは米などの穀物を食害する鳥と思われるがちですが、それは収穫期の一時的なもので一年のほとんどを昆虫などの害虫を食している益鳥であると言われています。

新型コロナウイルス感染予防のため中止していた駿豆学園親の会総会を四月十六日に四年ぶりに開催することができました。感染対策として会場は、修善寺生いききプラザを借用し、二十世帯のご家族が出席され、提案した議題を審議していただきました。四年ぶりに会う保護者の方も多く、皆様のお元気な様子を拝見す

ることができて良かったです。対面で行う会議の重要性を改めて確認したと思います。今後も継続して開催できるように努力していきたいです。

地方公務員法の一部改正に伴い、職員の定年等に関する条例の一部改正を行いました。職員の定年退職となる年齢を段階的に延長し、令和十四年までに六十五歳とする内容になっています。具体的に言いますと、今年度は定年退職が発生しません。来年度六十一歳の方が定年となり、以下一歳ずつ引き延ばし最終的に六十五歳が定年となります。人材不足に対応するため、また雇用と年金の均衡を図るために実施していきます。

短期・長期修繕計画に基づき施設の長寿命化工事を令和四年度から始めました。昨年度は、ソーラー給湯設備の配管と自動火災報知機、避難誘導灯、各居室のナースコールなどを取替えました。今年度の予定としては、給水タンク、各照明機器などに着手していきたいと考えています。工事業者が園内に立ち入ることも多くなります。ご家族の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。今後も利用者が安全に安心して生活していただけるよう考えながら、修繕計画を実行していきたいです。

新年度に向けて

支援課長 木村 悦治

三月末、やよいの会を訓練棟にて全体で行いました。コロナ禍でグループに分けての活動が中心でしたが、感染対策を行いながら、昨年度より徐々に以前の活動に戻していくようにしています。五月にはコロナが五類に移行し、各地において大規模なイベントなどが次々と開催されており、感染状況を見極めながら、本年度も更に活動の幅が広げられるような様々な企画を考えていきます。

日中活動において一つ大きな転換があります。大地の文面でも触れられますが、作業グループ「大地」で行っていた農作業を終了する事となりました。利用者の年齢が上がってきたこともあり、年々作業に参加できる方が少なくなった事、それに加えてイノシシ等による鳥獣被害が多く、作付けをしても荒らされ収穫もできない状態が続きました。農作業は児童施設の頃より行われており、私も成人施設以降に携わらせて頂き、季節の野菜作りに利用者の皆さんと取り組んできました。何より作る事の楽しさを感じてもらえることを大切に

にしてきましたが、大変な事、苦勞する事も多く、どこまで伝えられたか不安に思いつつも、収穫している時の利用者さんは皆笑顔で楽しんで作業をしていたのが印象的でした。一つの歴史が終わるようでさみしい気持ちではありますが、農作業を引き継ぐ形で、これまでも行ってきた、プランターでの草花の栽培や花壇の整備に更に力を入れ園内美化活動として利用者の皆さんと取り組んでいきます。

利用者の皆さんは当然ながら年をとっていきます。今まで出来ていたことが難しくなってきた、体力の低下がみられる等、支援の課題として挙げられる事も多くなっています。そのようなケースにどのように対応していくのか、できない事をできないとする事は簡単ですが、それでは何も残りません。少しやり方を変えてみる、代替できる方法はないか、全部でなくてもここまではやれる等、様々な角度から探っていく事を実践していきたいと思います。

少し先が見え始めてきたこの状況で、利用者の皆さんに寄り添いながら、楽しみと活気のある生活となるよう支援をしていきます。

本年度もよろしくお願い致します。

山でマイナスイオンたっぷり

看護師 山田 美津子

自分の生活に時間のゆとりが出来てから、運動が好きだったのだから、運動が楽しかったのだから、ランニングにはまり、いろいろな大会にも参加しています。始めは一人で走っていましたが、SNSでラン仲間が出来ると、更に視野が広がってロードだけではなく、山へ走りに行くようになりました。トレイルランニングという、スポーツです。山へ入ること自体、苦手だったのに、いざ山へ行くと、下界では見られない、緑の美しさ、木々の迫力、空気の澄んだ感じ、全てに感動しました。伊豆は自然が素晴らしいとは思っていましたが、実際に触れてみると感動はひとしおです。すぐそこ小さな山へ一歩踏み出してみてください。

非日常の素敵な時間が過ごせると間違いなしです。

マイナスイオンをたっぷり浴びながら、山の中をのんびりお散歩してお弁当やおやつを食べに行くのも良いですね。

給食だより

栄養士 鍵山 智美

新しい給食システムに変更となつてから三年が過ぎました。予め調理されたものを再加熱して提供する「クックチル方式」と呼ばれる方法です。最初の頃は、温めるだけで軽く考えていましたが、食材によっては決められた温度までなかなか上がらず、何回も加熱と温度測定を繰り返したりと、新しいことを始めるということは大変なことなんだと改めて思い知らされた時もありました。

この三年で、厨房スタッフの誰が調理に関わっても、確実な温度管理と喫食時間に間に合うよう、業務の標準化が出来てきました。また、季節を問わず注意しなければならぬ食中毒をはじめとする厨房内の衛生管理にも、より一層気を配り、利用者の皆さんに「安心・安全な食事」の提供が常に出てくるよう、厨房スタッフ一同、気を引き締め日々の業務に取り組みたいです。

大地

生活支援員 藤井 優



畑ありがとうございました

児童施設の頃から利用者の活動の一環として行われていた、農作業。この農作業で使用していた畑を五月中旬に貸主にお返しいたしました。今まで利用者や職員にたくさんさんの体験や思い出を有難う御座いました。今後の活動は木工作業や他の創作活動に重点を置き、ふれあい広場やワークショップでの販売を頑張っていきます。たくさんの方に大地の作品と出会ってほしいと思います。

あおぞら班の活動

生活支援員 松本 明美



たくさん歩きます

毎日、外歩行を行い、気分転換と体力維持を目標に活動をして行きたいと思っています。最近では天候が不安定の事が多く、外での活動が難しい日もあると思います。そんな日は、ドライブや室内でのボール等を使ったレクリエーションにも取り組み、楽しみながら利用者の方達の体力に合わせて身体を動かす事が出来るよう工夫しながら行っていきたいと考えています。

笑顔いっぱい「外出活動」

生活支援員 金刺 聖子



青空の下は最高

利用者の皆さんが、毎月楽しみにしている外出活動は、今年度も四谷ループに分かれて出かけます。駿河湾や山の緑を眺め、季節を感じながらのドライブ。お日様の下で、お花見を楽しみながら、美味しい食事やおやつを食べて、充実した時間を過ごして頂きます。希望を取り入れ、わくわくするような企画を考えていきます。今年度も、安全第一に笑顔があふれる外出に行ってきます！

スポーツクラブ

生活支援員 高野 慶



砂浜で体力作り

今年度のスポーツクラブは、四班編成で行い各グループにあった活動を楽しく安全に提供していきたいと思っています。様々なスポーツやレクリエーションを通じて身体を動かす事の楽しさを改めて感じてもらえたらと思います。また、わかふじ水泳大会やオレンジマラソンに参加し充実感を味わってもらい日々の生活がより良いものとなるよう支援していきたいです。

美術クラブ

生活支援員 佐藤 順子



なにが出来るかな？

美術と聞くと絵の具を使って画用紙に絵を描くと連想する人が多いと思います。絵を描くとなるとなかなか難しい感じがしますが、利用者の皆さんが好きな材料を使って自由に表現する、手や身体が汚れてもいいから直に触れて感触を楽しむ、そんなクラブ活動で良いと思います。利用者の皆さんが無理なくできる計画を考え、職員も一緒になって楽しめる活動にしたいと思っています。

おやつクラブ

生活支援員 大木 章敬



美味しくできました

今年度、おやつクラブでは自分達で作る楽しさや嬉しさ、食べる喜びや幸福を感じ、美味しくて楽しい時間を過ごしていただけるように様々なおやつ作りに挑戦していきます。利用者皆さんのリクエストや嗜好を考慮し、季節を感じるものや、盛り付けなども工夫し、眼で見ても楽しめるもの、美味しくて楽しい体験を、活動を通して提供していきたいと思っています。

音楽クラブ

生活支援員 久保田 さおり



カラオケはじめました

新年度がはじまり、四月の末に利用者さんが大好きなカラオケを皆で楽しみました。久しぶりに大きな声で歌い、笑顔や笑い声の多い時間を過ごしました。六月の運動会では、音楽に合わせて身体を動かしたいと思います。楽器を鳴らし音を楽しむこと、DVDなど目で見て楽しむこと、そして、声を出し、身体を思いっきり動かして、今年度も笑顔で沢山見られる様、支援をしていきたいと思っています。

安全対策・権利擁護委員会

生活支援員 熊山 浩之

「安全対策・権利擁護委員会」は、今年度も虐待防止責任者の園長をはじめ、虐待防止受付担当の支援課長、男子棟長、女子棟長、看護師による五名の委員でスタートをしました。

委員会では虐待防止・権利擁護に関する案件として、身体拘束の実施状況の確認。権利侵害となりうる不適切対応等について全職員より意見を収集し委員会で検討を行い。事故防止及び支援に関することとして、ヒヤリハットを活用し事故防止及び支援方法を検討しています。検討結果は職員会で報告し職員全員に周知徹底を図っています。委員会を通じて権利擁護の視点に立った適切な支援となるよう取り組んでいきたいと思っています。

また、職員研修にも「虐待・権利擁護」に関する議題を挙げ、職員全体で勉強会を行う予定です。自分の行動を見つめ直し、職員間で意見交換を行うことにより利用者の皆さんにより良い支援ができるよう努めてまいります。



新人職員

調理員

加藤 美代子

この度、四月一日付けで入職しました。伊豆市内のこども園で十一年間給食調理の経験をさせて頂きました。住まいが中伊豆と、少々距離がありますが、趣味の音楽鑑賞が出来るので、道中のジビエ達に気を付けながら、楽しく通勤しています。

今までの経験を活かして、利用者の皆さんの食事時間が楽しくなるお手伝いが出来るよう安全な食事提供に努めます。宜しくお願い致します。

年間予定

- 6 / 3 (土) 運動会
- 10 / 22 (日) 駿豆ふれあいフェスティバル
- 11 / 25 (土) 静岡オレンジマラソン大会
- 12 / 14 (木) ~ 18 (月) 愛護ギャラリー展
- 12 / 17 (土) クリスマス会
- 3 / 22 (金) やよいの会



国際ソロプチミスト伊豆天城様



大仁地区更生保護女性会様

来園下さった皆様



天理教西浦分教会様



東静岡ヤクルト販売(株)様

ふれあい広場

― 善意を寄せられた方々 ―

- 東静岡ヤクルト販売(株)様
- 函南町民生児童委員協議会 地域福祉部会様
- 大仁地区更生保護女性会様
- 国際ソロプチミスト伊豆天城様 ― 奉仕をされた方々 ―
- 天理教西浦分教会様
- 金刺甚一郎様

皆様のご厚意に感謝します。
又、アルミ缶回収に御協力下さった方々にも厚く御礼申し上げます。

【お知らせ】

面会をご希望の方は、事前に電話にてご確認ください。パソコン等を利用したリモートでの面会も実施しております。

駿豆学園ホームページでもアクセスを閲覧できます。

アドレスは

www.sunzugakuen.jp/です。

ぜひ御覧ください。

編集後記

今年度も、あすなろも読んでくださる皆様に、駿豆学園の様子や利用者さんの沢山の笑顔をお届けしたいと思います